太宰管内志

豐前之三
田川郡之下

和書門
類 二九六〇一 號
函 二〇二 架
冊 八二

内閣文庫
和書
類 二九六〇一 號
冊 八二 架
函 元 函

内閣文庫
番號 和 29601
冊數 82 (65)
函號 176 44

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

太宰管内志

豐前之三　田川郡之下

筑前人伊藤常足編録

○彦權現社

彦山記曰、云云霊光西来止南岳、作八角五光玉、石高三尺六寸、先是大己貴神既娶田心姫命、子三女神俱宇佐島来、卜北嶺鎮座時蒼鷹一隻、翩然東来影向霊石、大己貴命謂三女神曰、是天太子水盈尊奇魂也、即辞北嶺奉之日胤尊、崇山之本主、従之名日子山、時又白鷹一雙天降共影向石上、敬曰天祖乾坤分魂也、分奉南岳、菊理媛命、皇産霊尊、従現石下五神會中岳、合徳鎮八極、大己貴命雷市杵島姫命、于山之中層、率田

心海津二妃、下鎮座山之腹、是施主北山殿也、立田心姫命、為
標職、捃隠于此因云之豊比女神社祕也、以上七神、神代鎮座
也、次下、五座祖師開峰、時出現皆称童子、曰南岳、崛、大聖童子、
王屋、崛、金枚童子、智室、崛、福智童子、鷹栖、崛、都良童子、別有深
秘、一社、総十二社也、表天神（彦山記ハ稿正通の作也、天正九年大友氏の兵火よりきて今僅よ一二葉を存ス）、大師流の習合神通よ、熊野三山、三身灌頂あり、其
本宮、法身灌頂、秘訣云、天下豊前國彦根、大岳其形八角如水
晶、長三尺六寸云云、長寛勘文よ、熊野権現御垂跡縁起云、往
昔甲寅年、唐乃天台山乃王子信、舊跡也、日本國鎮西日子乃
山峯、而降給、其躰八角奈留水精乃高伍三尺六寸奈留仁天

天下給布、次五ヶ年乎経、天代午年伊豫国乃石鉄乃峯仁渡
給、次六年乎経、甲子年、淡路国遊鶴（ツル）羽乃峯仁渡給、次六ヶ
年過、庚午年三月廿三日、紀伊国無漏郡切部山乃海乃北乃
王那木乃開農上乃松木、渡給、次云云、今案如縁起者唐、天
台山乃王子信之垂跡云云、王子信不知誰人、若周、霊王大子
晋欤、但此記末審、難取信、（行者傳記よ、崇神統御之炁、水晶石神自玉那岐開、上還、帰鎮西彦山時、
八角如故、長為三尺六寸、示法身妙体者耶、筑前国志摩郡今津、浦壽福禅寺、古文書よ、法性國之御有持天神、摩訶多國之
大王天照大神、渓誕国之御鎮守、権現、権現者七歳之御時、唐
乎日本塩之境、五島、而浄土會之観音乎現ず賜ふ也、従其平
戸之郡、康満岳之主持之権現、自其肥前之国後藤山之主
やう、黒上、法身権現是也、それらりゐなさ大明神と現ず、又
又其より龍王崎かうめの島乎、彦島と申也、龍
王崎ゆり舟よ乗せ給ひ、寺丹之津よあゞり給ひ、手水をつ

うはせ給ふ為ゑ堀せ給ふより。于今寺井と申す也。從其千端之布をはへ。金住山まあかゝせ給ふ處ゑ。中途ゑて布留前。三ケ国之景山。彦山三社之權現とあゝほれ賜ふ。彦山ハ

二ツ殿。天台山と現ず。其より熊野拾二所權現ゑ現ず。其より天下第一大靈權現と現ず給也。安婆世界南瞻部洲大日本國西海道筑前國志摩郡濱崎浦權現堂。恒例修正人名帳之事。一戸屋一枚。為志行年之奉公。ふれゑや〳〵富ふれゑ。かゝそひだゝよのおんそとり右三べん弘安三年正月

沙門源空諸神本懐集ゑ。豊後國彦山、云云彦山天下、給時。其形八角、水精也。其長三尺六寸也。靈驗九州遍万人歩不運無止事とあゑ。又和漢三才圖會ゑ。豊前國彦山三所大權現。在田河郡。社領三百石。出於國守祭神。北岳天忍骨尊。中岳、伊弉冊尊。南岳、伊弉諾尊。別尊靈仙寺六百五十坊祭礼二月十五日。是を招會と云伽藍開基記ゑ彦山件釈

迦弥陀千手大士。垂跡於當山。以為三社權現而搆宝殿以奉之。九州軍記ゑ彦山大權現と云ハ。本地ハ西天竺の靈神ゑ。ゑ崇神天皇ゑ御ゑ天竺よゑ東へ向て五鈷を抛給ひ云云。縄脉天皇の御代大唐より善正和尚と云人来ゑりて。彦山を草創ゝ云云とあり。本朝代年紀ゑ。

凡彦山、三岳、鼎峙三神垂跡。北岳、天忍骨命。南岳、伊弉諾尊。中岳、伊弉冊尊也云云。延喜十九年令豊前守惟房。奉幣於彦山神。又後冷泉院御時。伊豫守頼義。祈當山退治安倍貞任。自此以當山為武家御願所。又後白河院祈平家滅亡。御願成就。云云ゝど見ゑ多り。上代彦山ゑ領ゝ多り地ゑハ其神社を建て限りとす。是を七代行事、社と云。其社今もの有れゑ七代行事と云ハ豊後国日田郡夜周郡狭村の大行事。又鶴河内村の大行事。筑前国上座郡福井村の大行事。同郡ゑ石泉村の大行事。豊前国田川郡添田村の大行事。下毛郡山国郷守実村の大行事。ゑどなり。此社今も有て神官

是を守きり。次ゝ諸堂等の事ハ上宮を本社と云。是則女躰
権現なり。坊中より山を登事。三十六丁あり。金跡ハ伊弉冊
尊ゝして。本地ハ観音なり也云。此社ハ肥前国佐賀城主の
造営なり。此社南下方ゝ窟あり。其窟中ゝ仏ゝ祢ゝて造きる
仏像あり。弥陀釈迦観音の三躰なり也云。此仏ゝくぐゝあ
る事なし。大友盛妨の時。兵士是を打落ちりと云。次ゝ南岳
を俗躰権現也云。金跡ハ伊弉諾尊ゝして。本地ハ釈迦如来
なり也云。次ゝ北岳ハ淳躰権現とゝ。金迹ハ忍胥命ゝ
て。本地ハ阿弥陀如来なり也云。南岳北岳ハ。造営施主定坊
なり。次ゝ中宮下宮ハ。三所権現白山大行事熊野是なり。霊
験記ゝハ。中宮下宮ハ。三所権現白山大行事熊野若王子王
屋大南智室鷹栖也あり。次ゝ北山三所也云ハ。當山地蔵菩
薩不動明王毘沙門天の金跡なり也云。北山正躰ハ金銅像
なり。皆下宮ゝ安置せり。宝殿拝殿八間檜皮葺なり。北山ハ
宝殿三間拝殿五間なり。大講堂ハ。小倉城主造営なり。二丈
二尺間七間ゝして。瑠璃なり。此内ゝ釈迦三尊阿弥陀三尊
不動三尊を安置せり。各丈六佛なり。次ゝ二階楼門経蔵食
堂温室等有ゝ也云。今ハ絶てなり。又山内別院也て。金剛
院惣持院教主院なる也あり。此外花臺院安養院阿弥陀堂な
也も有ゝ也云。是も今ハなゝ。又新宮と云物あり。三所権

現金杖天童御躰を安置せ。皆金像なり。宝殿ハ五間拝殿ハ
六間ゝして。檜皮葺なり。さて諸堂上。上宮下ゝ中宮也てあ
る。但優婆塞を祭きり。堂前ゝ降摩壇あり。此處より霊水流
いづ。此堂も佐嘉城主の造営なり。金鳥居あり是も佐嘉侯
の寄附なり。麓より加祢ゝ鳥居まで十八丁あり。此鳥居ゝ
上宮まで六十丁あり。上宮ゝゆゝ道筋ゝ鐐を取て登る
所あり。山中古木多ゝ杉ゝも殊ゝ大なるあり。六圍七圍ゝ
いなる。又山内ゝ得と禁ずる猪鹿狼の類多ゝ。山内ゝて
機を殺らば子をうむ産する時ハのりものゝせて妓
女ゝ下る。

○豊前坊社

彦山記曰。豊前崛一云鷹栖宮。有高天原之奥。主神称憐愍童
子。大日霊貴尊之変身也。脇士云火明命火返命。行者同峯之
時出現也。有唱和之言。以行者難察和慈善。忽変作夜叉形威
容可畏。勇猛如素尊大現霊験。山塹鳴動万物作薺。其威神身

称豊前坊天行夜叉飛行夜叉。豊鐘善鳴録三巻ヨ。璋山禅師
諱融珪信州諏訪人云云。康暦初豊前三嶽城主永野藏人創
三嶽山護聖寺。請師為開山云云。師在護聖一夕峩冠神人入
室啓曰。我是彦山豊前坊竹臺権現也。久慕風德冀聞戒法。為
授無相禅戒及通妙号。神人設礼曰。其幸領法。頓得超脱。不知
将何報之。師嘱護山門。神人唯々即昇空去。山頂有古松一株。
聳出雲間。大可數圍。神恒託跡樹梢。鎮護寺門。人或觸之立見
凶祟。云云本朝年代紀ヨ。凡彦山云云又有竹臺権現所謂豊
前坊也とあり。三社権現ハ。東北ヨ在て。其間上宮より
□余町あり。二月八月上丑日ヨ祭あり。豊前坊社又天行夜

又飛行夜叉社あり。肥前國佐嘉城主より建立あり。此社も古社と
ハ聞えあれどもいまゝ四證を得ず。故ヨ暫く善鳴録等ヨ
依て是をあゞ

○岩亀八幡社

洪鐘銘ヨ。豊前州田河郡伊加利荘八幡社鐘銘。本祠乃圖境
孰邃豆駿奔走歳時祭焉。然曠古以来洪鐘未之有也。比丘主
周遍千衆檀前作州大守大江貞政。戮力賛成。乃鑄鉅鐘以考
撃之使来請鐘銘于長州吉田蓮臺寺。比丘元棣為之銘曰。豊
之田河伊賀利里神庇邦本廟食于此。潔粢豊盛。匪懈祭祀。冀
簠未陳。長夜聞尒。明德筭四。是歳在癸。周謀于衆。神用相止。乃
酌金齊。能事異矣。於戲董靡物不被震鮮格非斂輪輙祝吾。霊

祠威德倍蓰礼樂備声容可視乃幽乃明神人燕喜無有窮已
辞而繫焉無媿島氏明徳四年龍集癸酉七月幹縁比丘圭周
且那前美作守大江貞政大工安宗とあり此社ハ今も田河
郡伊加利村ゟ在て岩亀八幡社と云祭神宇佐宮ゟ同じ社
ハ東向ゟ〳〵て神殿拜殿あり自然石すて削成せる石階四
五間許あり其上六七間ハ常の石ゟ祭礼ハ［　　］ゟあり神官
宮内氏奉仕きり さて右の洪鐘ハ延享四年卯三月六日企
救郡貫八幡社圭田内ゟ堀出せりと云径一尺六寸あり
前美作守とあるハ大善寺の城主ゟり大善寺の城と云ハ
此村の内ゟあり社ゟり西ゟあるしれり

○位登八幡社

敷板銘ゟ鎮西豊前國田河郡位登庄以襲奉建立八幡大菩
薩御社一宇先願皇風永扇神慮佛日増輝法輪常轉專祈大
檀那武運長久子孫繁昌殊者彼造立之儀天正九年十一月
頓令焼失因茲至檀家被成御託宣種々被顯神秘之條彼三
社令造営畢其時地頭調朝臣星野九郎實首宮司仲納言郷
代官星野左馬大夫實友判于時天正十一年癸未八月六日
同二板ゟ鎮西豊前國田河郡位登庄一今度彼三社造立之
刻領主從星野實首甲斐弓從鎮實刀於神殿拜進百之被任
先例宮司進退在之事一於神殿毎事牛馬已下其外諸拜進
物依為先例可為右同前之事一御幣取沙汰是又宮司可被

存知之事、右條々為未代書付之畢、于時天正十一年癸未八月六日、代官星野左馬大夫實友判、同三、扨ハ、鎮西豊前國田河郡位登庄、今度彼三社建立之刻社方諸役等之儀大方書所之恐而御神樂御調之事、大宮司可為存知者也、為後代顕此書畢、于時天正十一癸未八月、代官星野左馬大夫實友判、

とあり（此扨、常足も見るめ、延寶四年此社を改造る時ハ神殿の下ハ敷てありしもとり出しるるとりか）

位登八幡旧記ハ云云、神殿、幣殿、回廊、樓門、宝庫、神樂殿、御供殿、鐘樓、宝塔、四足門、浮殿、神輿堂、馬場殿、石清水、筏川、放生池、神厩、反橋、花表、修法殿、神鹽池、石堂（階）、本寺堂、燈炉、神宮寺（座主住）、大宮司（一家）、四箇宮寺（感應、奇泉、寿福、弘德）、屬社（三所）、貴布祢（十二社）、佛堂（地藏三所）、釈迦、藥師、盧空藏、伽藍聖、云云（神社及神官今存すといへとも絶て傳りしる物名）、又宝永七年八月、縁起ハ云云、宮尾、湯屋、庄屋名（上）、稲藏（下）、稲藏、古野、中園、水上、飯丸、堂丸、監宮（宮柱也）、奥（宮柱）、小路、隅鍛冶屋原、下城的場、上城庄津、久我、下宮尾、馬場、寺廳、以上二十四名之農家三月、百手六月、筏八月、廿五日本式神祭務之、自廿三日事始冬嘗十一月上卯日、自廿日事始大祭也云云、位登宮旧引（周防国大内左京権大夫義弘依應永之勲功賜豊前国政道（従山口務之其家督盛見持世教弘政義與義隆共相續也殊義隆任補太宰大貳之官職、従防州山口執行九州之事彼家之旧記防陽要全及後八代記等所見抜書文中写而為後年之證正悉見左）

一豊前國大原庄位登宮別當為天台別院、事彼宮之神官等宜知之旨下書訖、子細延暦二十四年傳教大師帰朝之後於

彼宮法樂修法之因今度明令知云云此末略之應永五年正月十
七日記義弘代也一鎮西豊前國大原庄位登正八幡宮大祭神事
數百年來斷絶去建武年菊池武重雖再興依國乱怠展去年
將軍家御願成就之上者早今年八月可遂行之旨上意嚴重
也大原庄在廳官府之輩宜勤賄監者此旨里野常陸入親旨
可裁許之事下書訖云云此末略之永正十年六月十日記義興代也一
豊前國大原庄位登正八幡宮寺座主大宮司訴歎申目安條數一
通之事抑當社者應神天皇皇居即位告宣最初之地而欽明
天皇辛卯秋有御神託遂奏聞下勅宣宮寺始草創以降諸殿
成恋之伽藍也去文亀三年夏當國軍乱宮寺嬰兵火殿堂灰

燼今又就官使雖遂奏聞時既諸國一統之乱世而大宮司座
主益箇之寺院失其便無田起修理之手且願大内家為武運
且為國家鎮静被加修繕之営造者於神慮大感速乎任古例
諸山权石領用之事當庄官府在廳人等宜被加御下知者乎
往古神領之田畠近年武士濫行事歴然也當神宮寺古来之
連規云云右當社古之儀令建聞者也如此神德高皇之宮寺
以因縁多大早可被加修理者請伏而仰仍目安牒如斯以上
天文二年三月日座主大宮司申上達大内太宰大貳位下義隆代也一
豊前國大原庄位登正八幡宮司大宮司座主謹乞天皇宝祚延長
之御祈念於神前眞讀之大般若経本地供百座太平神樂万

座之奉幣所令成就也且八月古法之神事怠絶今年窺天氣可執行之旨可預奏聞者也光古来之神領被止武士狼藉者可為寛裕公恩益可抽祈念祭儀如去永正十年之法儀可預御裁許者也仍奏上所仰如此敬白天文十七年六月日 大宮司座

主 申上大内太宰大貳位下 義隆代也云云とあり。宮司宮木集人正重とあり。

祭神宇佐宮と同じ。社ハ東と向て為て是。今の神官毛利美作守と号す。位登社今も年中式祭七度あり。六月名越祭と神幸あり。九月十五日大祭を行ふ。鳥居より神殿までの間百間余あり。村の中央より少南と有て風景もよろしき所なり。今ある所神殿幣殿拜殿宝蔵。

是なり。初文と拳為る星野常陸太實旨と云ハ。大内家の幕下なり。星野左エ門尉鎮實と云ハ。毛利家の幕下なり。さて此社なも寄縁比なでい神領六町八段あり。由縁起と去るせり。位置村の西高山の上と城跡あり。上城下城とて二所とあり。二所共と家五六軒あり。是地名と称せり。又同村の南のつぐき金国村の西金国山の下と城跡あり。是ハ別山なて城跡の所れ高し。星野氏の城なり。又此社の縁起と元弘建武の間と菊池武重上城下城両所城を築て其旗城太郎左エ門尉武盛已下士と仰せて是を守護せしむる是見元為り。又位登村より半里許西南猪膝村と云所ありてこれも城跡あり。城主詳なし。さて猪膝村と肥後国より来為る者の子孫なりとて菊池姓人あり。今と十四五代と及ぶ。此家の古墓と城因幡守と記せり。代々名乗と武字を用ふ故ある事なるべし。

○福地神社

豊鐘善鳴録五巻と釈教順豊前州田河郡上野荘人也。幼而頴敏過人事彦山法蓮上人薙染精顕密二教常遊名山勝地

与覚満羅運能行等結伴修練一夕夢三異神曰上野山是五穀元神降霊之地也汝當速帰建祠以奉神順覚為異也還御寓山麓日夜至心持念白鳳壬申春正月三日忽見群児乗優遊山麓有騎白馬一童子謂順曰多年五穀不登人民不安盍禱于神救國民乎言訖不見順不覚礼敬喜躍乃登西北之中嶽果感三神之霊因奉崇保食神伊弉諾尊大己貴命称福智権現亦獲金鈴並補陀全像於山頂因修本地供時山上池中忽現虚空蔵観音地蔵三梵字乃建堂以酬指方由是号山於福智名寺於金光明徒衆漸聚而神霊日新大寶中役小角還自中華過此山見順如旧相識遂授順於舎那密印又用彦山寶満曁福智為金胎修験之場自尓後入當峯者就岩上祝聖持念因名其岩曰万歳巌順居此山殆五十歳徒衆益多矣僧房十二散處山中晩愛東南洞壑深秀為逸老之所乃勧請福智権現後人因地名岩窟権現又手彫大悲石像安置焉養老癸亥入定于窟之西搗とあり（善鳴録の文を依て引證をる）福地本宮ハ上野村の産沙神ふして福地嶽西麓にあり本宮祭ハ九月十三日ゟ是を行ふ（祭神事ハ本文ゟ出せるが如）神官早川摂津守奉仕せ昔ハ社僧ゟど數多かりしゟて六坊名今ゟ残ゟ王子坊富松坊宮司坊二本杉坊義行坊六郎坊是ゟり（此名今ハ所字ゟどゟ残ゟり又今の奥国寺と云し古ハ福智寺として此社の社僧ゟりし由彼寺旧記

よもの見ゆ　又福地、上宮として山上に石殿あり。又筑前、福地、上宮も山上にあり

此社の祭は、十月十二日中宮より是を行ふ。宝暦年中に作る社　上野村・鋤木田村・弁城村・赤池村・市津村・草場村・南木村・神崎村・大隈村・已上十ケ村の人集りて此祭を行ふ。

其より先に、中宮を造、又社僧坊を造る。台学院より福泉坊と号す。　寺常

上宮、中宮、八社僧奉仕す。　上宮、地は甚高く登り一里計の山なり。本宮の地は麓なれども、土地平原なるとなれなり。戸次軍談九巻に大納言秀長卿、幕下に福地参河守と云人あり

○鶴岡八幡社

軍記畧に、應永五年正月十七日、大内盛見、田川郡鶴岡八幡宮、有社参之事、神宮寺、別當行璃、抜縁起云云、縁起曰、人王七十六代近衛院、御代、仁平三年春鎮西八郎、依為領地、勸請相模國鎌倉鶴岡八幡宮、依之号鶴岡、續建五寺一院、大伽藍、四十八箇堂舍、久寿元年賜宸筆之額、号鎮西鶴岡云云とあり。

是は應永戦覧下巻説なり　鶴岡八幡社は、田河郡勾金庄中津原に在て香春町、殿町、中津原、高野、柿下、五村、産土神なり。社は小山、上に在て西南に向へり。神殿、幣殿、拜殿、石鳥居あり。祭礼は六月名越、八月十五日、九月九日に、あり神官鶴賀氏代々是に仕ふ。　田河郡内にしては彦山香原の両社をおきて此社を大社とすべし。常足按するに鶴岡と云号は後人の傳會にて敦賀なるべく思はるれども明證を得ざれば軍記略の説によらる

○金剛院

本朝年代記ハ彦山云云後白河院祈平家滅亡御願成就後建金剛院于當山云云と あり彦山旧記ハ山内別所者花臺院安養院金剛院惣持院教主院阿弥陀堂安樂寺新宮是也とあり金剛院ハ南谷ハあり本尊大六不動明王なり寺ハ西向ハして稍菁なり今ハ無住なり花臺院阿弥陀堂安樂寺等ハ断絶せり安養院是も同じ別處谷の惣持院ハ本尊不動明王大六二王あり宝殿五間ハして西向稍菁なり是も無住なり南谷教主院本尊ハ釈迦三尊等身なり宝殿今ハ三間なり是も無住なり さて新宮とハ上宮三所権現金杖の躰を安置せり皆金像なり宝殿ハ五間ハして拝殿ハ六間なり稽皮菁なり又講堂の下ハ今熊野社とハ云ふものあり今ハ是を鋳屋権現と唱ふるなり

○賀春神宮寺

續後紀六卷ハ承和四年十二月庚子太宰府言管豊前國田河郡香春岑神云云延暦年中遣唐請益僧最澄躬到此山祈云願縁神力平得渡海即於山下為神造寺讀経云云元亨釈書一卷ハ釈最澄云云於賀春神宮寺講妙経是時豊前州田河郡吏等録瑞雲狀寄之澄固封告義真曰非吾滅後不得開緘寂後門弟子等披閲其文曰今月十八日未時紫雲光耀起賀春嶺覆法筵之庭村民悉見敬異又最澄泛海時宿田河郡賀春山下梦梵僧来前祖衣露身左肩似人右肩如石言之曰我是賀春大明神也和尚慈悲救吾業道之身我當加助求法盡夜守護欲知我實海中急難現光為驗澄明旦眺山右辺崩

岩、草木不生、宛如梦中、半身、心異焉、又海中風浪有光耀、是以思神之不浪也、而建法華院自創講席、乃神宮院也、開講之後、其右岩之地、漸生草木、年々滋茂、卿邑嘆なりとあり、さて豊國紀行よ、上香春町云々、古此處よ傳教大師渡唐前後よ住まし事あり、此時より香春よ寺を建初ける、昔ハ六坊有しと云、其跡社、左右處々よあり、今も一坊残まりとあり、六坊事ハ高座石寺、件よ引出べし、今も上香春の北、方高坐石寺、上よ小庵ありて神宮寺、名を存せり、天台宗ゆ、て今ハ無住なり、是かの山下為神造寺とあるよりて叶へり、又按ずるよ両豊記よ、傳教大師帰朝の時田河郡よ伽藍十八ケ所を造始む、今勾金庄の内天台寺是をのこりり、天台寺を天台別院とゝよとあるよ依まで神宮寺も惣名なるべきか、ろ〳〵考ふべし、

○天台寺

應永戦覧記下巻よ、勾金庄天台寺ハ、往昔傳教大師帰朝の時、香春社よ参籠し、修法満備して、田河郡よ十八箇の伽藍を建立して、天台別院と号す、台宗顕学の道場とある、中よを天台寺ハ、千人衆徒會して護持國土の名藍なり、然るよ頃年稍もすまで佛衣を脱し、甲冑を帯して、妨乱を企て、浄土寺先よ進て、十六箇寺の衆徒を引具し、野臥をかゝらひ悪行をなす、云々大内盛見製使を立らる、鷲頭兵部大輔、桂左エ門督、其旨を承て、天台寺よ立入り制詞趣をのべ、寺傍よ

て悪僧六人の首を刎ねり。浄土寺よハ杉阿波守立越て衆徒等領常せ。両豊記よ傳教大師帰朝の時。田河郡よ十八ケ所の伽藍を創造あり。句金庄天台寺是其内の一つなりなどあり。里俗語傳よ。上伊田村内伊田原の東寺門と云處。是天台寺の跡なり。今よ残る礎石ハ門跡なり。昔盛なりし時ハ三百坊有りと云。常足按ずるよ門跡と云物ハ實ハ本堂の跡と大塔の跡となり。其二基南北よ相並べり。礎石の辺よ古瓦残るり。坊中跡と云物ハさもありなるむと思なる。天台寺事いまハ旧證を得ず。故よ暫く雑記説よ因て是を挙るよるむ。なお委く云ハ伊田原地平田なりなり少し高所よして夏吉村なり下今任村よ通ふ道筋なり原廣さ南北二里許も有むと思もる。東西ハ五町或ハ十町もあるべし。ゆづるしき平原なり。東堂大塔の跡其中よあり。平原なりハ六七尺も高かるべし。礎石の大さ三尺四方許なりて其數三十五六許あり。堂跡の廣さ四間よ五間許もあるべきなり。其南方十間許よあるハ大塔跡なり。是も同程の石を二十許並べたり。中よ塔軫木を立ある石あり。径二尺五寸許の円穴を彫あり。深さ五寸許も有べし。此邊すべて短き草ばかりなりて。木もなく又草の生ぬすきなるもなり。礎石ハ昔のまゝよ聊も動きなる様ハ見えず。破尾の散きるハ此辺ばかりなり。尾も青色なるハ堅牢なる事都府楼よ殊なるなり。坊中跡と云物ハ多く東北方よあり。東西五間南北十五間許なる處。是ハ礎石も破尾も少し残き。其外東西南北六十間。或ハ東西五十間。南北百間許なるとあり。或ハ島となるとあり。又小松なるどの生ある處もあり。是なり東よ低き處平田少しありて。其東よ同じ程の高さよて廣き平原あり。此方ハ多く島と成きり。是よ堀跡と思もるしを見え。又屋敷の跡とわりハるゝも元なり多し。土人傳よ或ハ此寺ハ鎮西八郎為朝の造きる寺なりなりと云ふ。さて應永戦覧記下巻よ。為朝豊後臼杵よ居住して鎮西八郎と号せ。仁平元年の比豊前句金大原よ移ひ給ひ

御舘を作又九州の成敗を取行ひ久壽二年より上洛ありと
あり。されば天台寺も為朝の比より一しほ盛ゆ成しなて
とあるべし。此外為朝ゆ由あるとて云慶是彼あれハ為朝正
しく此辺ゆ暫くとゞまりなるべし。

○靈仙寺

洪鐘銘ゆ。彦山靈山寺。大講堂供鐘一口。座主惣衆合力諸人
助成大勧進。當山住權律師珍海勝光坊助成。當國今居住沙
弥道本。右志者。為天下泰平。國土豊饒。山上安穏。奥隆佛法。十
方旦那息災延命。而已應永九八年辛巳六月九七日。鑄物師
大工。豊前國今居住。左ヱ門尉藤原安氏作。断助成。伽藍開基
記ゆ。豊州有高嶽聖跡。号彦山靈仙寺。乃釈迦弥陀千手大士
垂跡於當山。云云。以善正大師為開山之祖。豊鐘善鳴録五卷
ゆ。釈善正。魏国人

也。久念弘法図遊化。飄然航海達于筑之宰府。即本朝継躰帝
二十五年辛亥也云云。騰日子山巒翠而奇異。以為是聖賢神
仙之所棲遅也。遂杖錫而躋焉。構居石窟云云。後有一雄夫至
即窟山。恒雄也。初覩怪甚。至来稍狎。終得魏和語。明服正之化。
乞正。當一精舍。正乃以所賣佛像安之。扁曰靈山寺。正居日本
二十餘年とあり。此事戸次軍談八巻ゆも見えあり

本朝年代紀ゆ。役小角。寓之多年。継而大沙門法蓮主之。因重
営搆。於是神社佛閣。悉荘厳具足。實九州勝利。護國安民。大道
場也。四十二代主文徳天皇。錫綸旨於法蓮。又五十二代主嵯
峨天皇。弘仁間賜宸翰。使兼天台宗教。自是至今。以其法而
為護國道場也。彦山縁起ゆ。山中見坊二百余宇。四十九院。凡
十谷。東限豊前国下毛郡雲山。国中津川大井
手。南限屋形川壁野豊後国日田郡屋崇大肥里。西限筑前
国上座郡把岐山同西島御並下座郡内田幸浦尻懸石同嘉
广郡八王子道祖神。北限豊前国田川郡岩石寺藏持山法體
寺也云云。とありさて本朝年代記ゆ文徳天皇之時。豊後守

藤原恒雄登山見神とあり。神ハ彦山神を云なり。さて是ハ豊後国人藤山恒雄を誤りしなり。藤山恒雄事委しく豊西記に見えたり。豊鐘善鳴録五巻に、釈眞慶ハ、豊前州宇佐郡藤井氏子。以延喜十一年十月八日生矣云云。遂棲彦山数十年毎至九夏日課登巓於路旁請日本神祇大者建祠致敬彦山衆徒結夏詣祠慶其始也。同巻に釈増慶豊前州辛國里人以延喜十七年八月十四日誕矣云云。遂管霊仙寺修立堂宇常講竺典啓導山徒彦山祭神儀軌及其器具皆出慶之所制。本朝年代紀に、彦山云云毎年二月十一日至十四日必有神鳥飛来于増慶宮前食御供若有国家災難則蹴散不食之凡年中神事法會五十余度云云。又後白河院祈子家滅亡御願成就後建金剛院于當山云云。将軍家の願書等今もつたはれり彦山霊験記に、弘仁十三年中興法蓮上人奉詔参内於南殿勤修大法現奇瑞霊験最揭焉。感感之餘勅賞者宣依請云云。仍蒙寺領方七里十方檀那勅許。為勅願處改日子山為彦山。祝号霊山寺。此時置三千学徒。為鎮護国家霊場。准延暦寺奉祈宝祚長久云云。彦山記略に、凡當山座主職古者皆清僧也云云。後伏見院第六之皇子助有法親王為彦山座主。初為三井寺円満院門主。号長如法親王。其後以座主職為妻帯。自是子孫相續座主職云云。天正九年大友宗麟放火當山。於是上古傳来之経巻聖教本尊宝物記録等盡成灰燼也。天正十五年舜有座主遷化而無嗣子。閑貫首職。

者十有五年也。其慶長初毛利壹岐守侵當山。殆如大友。因是
當山老僧等。慶長五年三月五日。於伏見城。奉訟于東照神君。
此時又如先規。可為十方旦那守護不入之由。蒙台命也。慶長
六年。細川越中守忠興為豐前國主。尊敬當山為外護之旦那。
自請日野家三男為猶子。以令継當山座主職。是号忠有座主。
後任權僧正。以舜有座主之女子娶之。忠興以當國田河郡落合村。千百石寄
附當山。長為寺領加之。以一山諸役人祿。惣而二千石余 又天正焼失
已後。一山佛神皆在假殿。因之造營諸堂。漸復旧慣。忠有座主
又無男子。因之元和九年。請岩倉家二男為法子。是号有清座
主。任權僧正。以忠有座主之女子娶之 寛永二年。行東都。依慈眼大師及細

川越中守忠利之執奉。拜謁將軍家。寛永十年。至今領主小笠
原家。寺領等猶如先規。寛文二年。依春宮御踐祚。下勅於當山。
令修寶祚延長之御祈禱。長為勅願所。被下行御撫物并御祈
禱料。宣傳中納言基賢卿也。因之十一月八日。勤修紫燈護摩。
并當山權現御本地供百座。同十一日。講讀仁王妙典一百五
十部。同十二月六日。參洛献上差數云云。自今已後。弥宣奉祈
宝祚長久之旨被下綸旨畢。是未曾有之事也。云云。
多り。なを不も四方領地。神殿佛閣。古ゑ及りべやしへ。
主ハ極官權僧正ふいり。一山僧徒。行位階級あるて。四時
祭礼。三季入峯。怠事なく。又諸堂多くハ。造營施主定りて。

頽破せる事なく、又數百僧坊、軒を並べて、近國を眼下に見るさま、誠に類すくなき大山なり。

○興國禪寺

後醍醐天皇、綸旨に、豊前國田河郡上野宝覚禪寺者正運廓開嘉域、洲単傳之淨場也、修宇起敷、情儀式、超祖跡、宜相光扶桑、勇一上刹、紫衣法服之御衣、可奉祈聖躬億兆之宝位者、仍綸言如斯、元徳二年己巳八月廿八日、左中辨判、宝覚寺長老禪室、なり、勅前住南禪、無隱和尚、悲智雙行、心鏡明析、盡東漸一枝之春、尋蹈西来万里之月、竟入大元天目之上刹、親酌普應密眞之奥源、輙帰于本朝、開堂于顯孝、次攀聖福、仍住建仁、廣授像季之昏衢、實為吾宗之妙覚、爰著等終後英名、益高持念摩尼之光、混南維而尚潔、禪定瞳華之色、如平生而同鮮、摭化再誕、非直也、謚曰法雲普濟禪師、康正二年五月十四日、宣旨無隱和尚宜号法雲普濟禪師、藏人頭左中辨藤原高清奉とあり、此二通綸旨ハ李書紛失して今ハ傳りなし、

さて延宝傳燈録五巻に、元杭州天目山中峯明本國師法嗣、京兆南禪無隱元晦禪師、豊前州人、延慶中、与復菴己等入元謁参諸尊宿、中峯鎚下了、畢大事、泰定三年与清拙同舶而回、拙住建仁、峯為弟一座、藤道庵居士（大友氏）聘出世顯孝、移聖福得平師招主、国覚建長貞和四年住建仁、有詔董南禪、又為壹州安國（旧号海印）第一世、晩帰故里、結菴養老、凡有所問、答趙州因甚道個無字、学人終閑、口師便呵、延文三年十月示寂于福智寺、塔在南禪、曰幼住菴、康正二年勅賜法雲普濟禪師（福智寺則興国寺なり）、豊鐘善鳴録一巻に、豊前州宝覚寺無隱禪師、諱元晦

姓大藏本州田河郡弓削田邨人也。早歳依聖福明寛禅師披
削受戒延慶己酉与復菴己等數人南遊登天目参中峰本禅
師服従六年云云嘉暦元年与清拙徴公同舩而回。拙住建仁
挙師為第一座藤直菴聘出世筑之顕孝。未幾移聖福。尋得平
師招主相之囚覚建長貞和戊子蒞建仁云云。有詔董南禅干
時壹州創海印寺請師為第一世。及晩年。帰豊與福智廃墟。更
号宝覚。後醍醐帝頒綸為官寺焉云云。延文三年十月十七日。
怡然示寂。壽七十五。至火浴時數珠眼睛不壞。建塔于南禅宝
覚。両度康正二年。勅諡法雲普濟禅師云云。師初結菴于福智
寺址。及建伽藍。更号福城山宝覚寺。後醍醐帝時特賜泰平與

國寺之額。其後復改称天目山與国寺。天文中大内義隆命大
寧助翁和尚令與其廢更号天目山與国寺とあり。又延宝傳燈録五巻
すも見えあり さて與國寺傳来古文書ゑ。寄進豊前國天目當国赤
坂別府田地捌町角田得富捌町塔田参町阿利重經伍町弥
稲男綿九貳町地頭職事。依為六十六ケ寺随一領所寄所守
先例可被致沙汰之状如件。康永元年九月二日。權大納言源
朝臣判。此外ゑ暦應三年文書左兵衛督判とあり 又豊前國天目寺料所事。六十
六ケ寺随一也。為彼寺領當國闕所内得分参百貫計以便宜
之地可改申状如件。暦應四年五月九日。太宰少貳殿。直義
判。此外ゑ直氏の書状一通。文和二年大友氏時の寄附状一通。次勝定院義持將軍御教書。此一通ハ焼失せり。次太宰

大貳の添符一通、次應永十三年大内盛見ゟ鋤本田村内二十石、寄附状一通、次應永十九年大内持世ゟ鋤本田村内七拾石の寄附状一通あり、又太府宣太宰府聽官人等應任早聽宣管豐前国田川郡天目寺（別号奥田寺）領事、右任去康永元年九月二日推大納言家御教書并應永十三年卯月十日從四位下行周防守盛見裁許等之旨、永扶和尚可被執務之状如件者在聽官人等兼知依宣行之以宣、天文十三年卯月十一日、大貳多々良朝臣判、又禁制天目寺領右當寺領諸天役事、以大寧寺領準擬御免除畢、但於段銭并御城誘者為國中静謐御賢略之條可被勒正欲至自餘課役者郡司郷使一切不可成其誘若有違犯族者可處嚴科之由所被仰出也仍下知如件、天文八年十月若狭守判、美作守判、民部太輔判、（裡書ゟ此前致被露被成御心得畢ゟ同判、石見守判、天文二十一年五月八日、）ゟ同添尺阿知行從豐前国築城郡絹留湊内出米當寺納分拾石之事、可預御扶助之通言上之條、遂被露被成御心得畢、雖然對當寺代所可渡進之由被仰出之條、同国田河郡方削田庄結地拾石事可渡進之由申候然者尺阿代打渡肯為右出米代所可有御知行之由可申入之旨候、恐々謹言、天文十四年九月十六日、奥国寺監寺禪師、隆尚判、弘成判、奥種判、奥秀判、ゟ（此外ゟ京保六年小笠原家ゟ）ゟ寺境の田畠三町并山林境内の分寄附の状あり、本堂ハ南向なり、寺ハ西向ゟて觀音堂あり、（庫裡ハ造續ゟて下段ゟあり）此寺も昔ハ福智権現の社僧

うりうりと云寺ハ上野村内山傍なあり土地高くして其清
浄なる處なり此寺ハ墨染櫻と云物あり細川玄旨法印此
櫻を見て

ひとそ染の教を受てさく花の心い同じ深草のつゆ

此外近習の士のうめり〳〵哥ども是彼のうれり此寺ハ禅宗なれ
臨済流なり此寺ハ古き過去帳あり此外なも聊古き物ど
とのうれり〳〵由なるが今ハ詳ならず四月八日釈迦誕
生會なハ近郡なり詣づるもの多し

◎高座石寺

香春社古縁起ハ傳教大師流記曰義和七年正月十七日最
澄於豊前國田河郡以赤染連清為檀那云云香春山其高一
里有白岩無青草當初又明示大師言我山可令生草木云云
而彼山東腰有方丈白石大師坐彼上七日　講法華経草
喩品千草万木忽生長此号高座石香春神社旧記ハ香春社
神宮寺有六坊山王山高座石寺雲立山東光寺寿亀山小藏
寺碧水山功徳寺無盡山大藏寺瑞鷲山観音寺是也とあり
後太平記三十五巻ハ香春岳ハ西南ハ岩石峨々として石
階を畳むが如く東北ハ岸高くして一二三の岳天ハ聳へ
嶺頭なハ山王権現社壇覆を並べ麓なを大菩薩の高座石
寺軒を連ひ霊峯佛地ふして岩龍領峙路ハ羊腸ハ繞り谷
狹く岸なを松柏立並び枝を伸べ葉を垂る云云とあり高

座石寺ハ二岩の麓聊高き所ゟ有て南ゟ迎へり左右ゟ大石甚多し本尊阿弥陀如来を安置せ さて高座石寺代境記とゝ物ゟ始号高藏寺後改高座石寺慶長五庚子細川忠興公領於此國令家弟長岡中務主於此城豊前州田河郡香春城中務建先考泰勝院殿之塔此以為追福道場寛永九壬申年細川忠利公移封于肥後時當住祖周長老従行とあり禅宗臨済派

○成道寺

成道寺縁起ゟ豊前國田河郡白鳥山成道寺者傳教大師開基之地而天台別院十八ヶ寺之一也ゝゝとあり成道寺ハ田河郡中伊田村ゟあり今ハ禅宗と成て長門国深川大寧寺の末寺なり寺ハ北向なり寺後ゟ泉水あり中ゟ辨才天社あり石殿ゟて甚古し石花表もあり又少南方高ト所ゟ小督局墓と云物あり下ハ石を集て上ゟ二尺四方石を置り又其上ゟ一尺八寸四方許の石を置り此石の四方ゟ佛像と彫付あり其形甚古し其上七輪塔あり小督局縁起と云物あり古物ゟあり小督局髪とかゝして後太宰府ゟ来あり此寺ゟて病して没せる由記せり

○緑野川

景行天皇紀ニ云ゝ土折猪折隠住於緑野川上獨特山川之険以多掠人民也あり緑野ハ美杼利奴也訓べし和名抄ゟ上野国緑野ハ美止乃也ともあれど是ハ利字を落せりときこゆ名義ハ草木の美麗き處ゟて屢せるべし川上ハカハラヒと訓べし水源の事也いきこえに春岑云緑野川ハ田河郡上落合村ニ在て今ハ緑川也云此川彦山西を

北より流して、數里を経て、筑前の内へ入れり。上彦山、人云、土折猪折が隱在し、緑野川上、窟い、彦山坊中より二里許南の山中に、姥懐と云處有て、其處に大窟ある。是なり也云傳ふ。是則今の緑川の川上なり。此姥懐也云い、大廻行者也て、彦山境内をめぐる者の必やすらる處なり。上落合村なる深倉也云処より近し。又い割石峠より東北方に當て、朝板也云處昔ハ朝野川也云。あり て、其山上に大なる池あり、夫を木葉隱池といふ。彼土折猪折、此辺に住て時々い、此池に隱有しなり也と云傳へしと。又云、朝板ハ、彦山坊中より西方にして、筑前国上座郡小石原に通ふ道筋なり。此辺凡て深山にして、山間より流出る水緑川に集て北に流る。さて朝野川也云ハ、今玉屋谷より出て、西北に流して緑川に合つ。朝野川、今ハ潮井川也云。此川會處にある。則朝板ホ葉隱池なり。今ハ人家四五軒許あり。さて西に緑川、北に朝野川、うしろに割石峠あれど、景行天皇紀に、持二山川の險一也あるに、ふもとくかうり。

○桑原屯倉

安閑天皇紀に、豊國桑原屯倉あり。桑原ハ又波波良也訓へし。和名抄に、信濃・播磨・伊豫・大隅なども有て、いつれも又波波良と訓ませたり。名義ハ、古に桑を多く植ある處にて貢せたるべし。古諸国に仰て桑麻を植殖の事、物に見え多し。姿く大隅志上巻桑原郡件に云べし。又思ふに住る人の姓に因て、貢せしるすてをあらむか。姓氏録右京皇別に、桑原臣上毛野同氏、豊城入彦命五世、多奇波世、君之後也。又左京諸蕃桑原村主、漢高祖七世孫、万徳使主之後也。すべて大和国桑原、直也云也あり。村主也同祖なり。さて此屯倉ハ、宣化天皇紀に、筑紫肥豊三國屯倉、散在縣隔云云、宣課諸郡分移、聚建那津之口、以備非常也あるを、此内の一つなるべし。那津ハ、筑前国那珂郡にあり。又宇佐大鏡

小田河郡桑原有吉田敷云云也もあり春樹云田河郡今任
村柿原村小田村辺小桑原村あり是七倉趾なるべし也云
々彦山人也云ハ僧玄辯と云春岑ハ筑前人なり春樹ハ豊
後人なり豊陽古城記ニ明神山城在田川郡桑原村とあ
り原田伊賀守云赤村と桑原との間ちづつる二十町許り
なり迄也両所ニ七倉のあるむ反いかゞなりとも云々

○鏡山

豊前國風土記ニ田河郡鏡山在郡東昔者氣長足姫尊在此
山遥覧國形而勅祈曰天神地祇為我助福乃用御鏡安置此
處其鏡即化為石見在山中因名曰鏡山也あり鏡山ハ加我
美也万又カヾミノヤマ也訓べし今を鏡山村鏡山神社あり社の
ハ西南二三丁許りニあり鏡山村の内ニ四王寺山あり其
こゝニ観音堂あり是古の四王寺なりと云鏡池ニ近し鏡と
云を山名小員せしるハ山城國近江国なる也ハもあり也あり
ちきて肥前国松浦郡鏡神社の故事らしの趣ふいせらく
似ゑり其事委く肥前志ニ巻鏡神社ノ件ニ云るを考ふべし
豊前名處和哥集也云物ニ古今和哥集序文の注ニ豊国の
鏡の山を立ゑれむ君ゲ子年のかげハ曇らじ山中ニ鏡の
如くなる石あり其色黒くして半月の如しと記せり

万葉集三巻ニ桜作村主益人従豊前國上京時作歌一
首

梓弓引豊國之鏡山不見久者戀敷年鴨

同巻ニ河内王葬豊前國鏡山之時河内王太宰師也成り給ふ事
天武天皇紀ニ見之ゑり

手持女王作歌三首

王之親魄相哉豊國乃鏡山乎宮登定流

豊國乃鏡山之石戸立隠尓計良思雖待不来座

石戸破(イハトワル)手力毛欲得(タヂカラモガモタヨワキ)手弱女(ミナニシアレバスベノミラナク)有者(アレバ)為便乃不知苦(ナスベノシラナク)

豊前名處和哥ゑ衣笠内大臣

豊國の鏡の山乃雲ゑぬゑ光をそえて出る月かな

家隆

八百くゝ湯つしさゝ見るへき豊國乃鏡の山と吾ゑのため

宇佐大鏡ゑ田河郡鏡山有吉田敷云云なとあり。さて豊國紀行ゑ上鹿春町より六町許東ゑ九山あり。其處ゑ鏡山神社あり。夫より四町東ゑ鏡山村あり。此村上なる山則鏡山なるべく思ふる。されとも又彼神社ある方を鏡山と云ふやうにかし。又鏡山村の西端ゑ萩原とて耶なる松原あり。

古墓の方二間餘高さ三尺余ゑして方なる物二つあり。二墓の間十間許あり。里人相傳て河内王墓なりと云。民家ゑ近し。高所ゑハあらぬ二つの内何とも慥ゑは知かたし。是河内王墓なるべきか。又夫より東七曲坂上より南方一町許ゑ岩窟あり。口ハ廣かゝぶ腰をかゞめて入べし。内ハ高さ六七尺許ゑして奥ゑ入事二間餘横ハ七八尺許あるべし。其内ゑ石一つありて天を神躰なりと云傳へあり。此國風土記ゑ見えたる御鏡ハ此石の事なるゑや。同書ゑ鏡山を過行バ其東ゑ七曲とて高嶺あり。東西上下の坂凡一里許あり。其山上ハ田河京都郡の堺なり。山上より東北の方海陸の眺望いとよろし。山東ハ京都郡なり。七曲麓ゑ上野村あり。其西ゑ障子岳あり。天正十四年ゑ黒田孝高朝臣の攻落し給へりし。

高橋右近元種が端城の趾なりと云。

○高羽川上

景行天皇紀に。云云麻剥潛聚徒黨。居於高羽川上也。高羽ハ。多加波と訓べし。高羽。田河。同言なり。名義ハ上にも云へるごとし。如。鷹羽の意にてもあるべし。此賊居事。いまゝ詳ならぬ。たゞ云云。當郡採銅所村。内ゟ。高原と云處ある。此辺とも。すべきゟ。そうの里人。鷹羽の田とも語傳へなりとも云。なれども考ふべし。

○田河驛

延喜式ゟ。豊前國田河駅あり。今香春駅と云なるべし。今ハ香春方ゟり直に南と指て。筑前上座郡ゟ入とも。古ハ西と指て。筑前國嘉摩郡綱別駅に到る趣なり。

○多米駅

延喜式に。豊前國多米駅あり。多米ハ。太賣と訓べし。式に摂津国住吉郡多米神社と云とあり。名義ハ。多米連の住處にて負せるべし。姓氏録ゟ。河内國神別多米連。神魂命児天石都倭居命之後也。又左京神別多米連。多米宿禰同祖神魂命五世。天日和志命之後也。或説。御世奉仕炊職。賜多米連と。多米都物を造る故ゟ負る名なるべし。さて宇佐大鏡田河郡件。小多米虫生稲光云云。又康平二年三月。多米倉満愁申云云。延久元年三月。多米倉満童国裁云云。なども見えあり。地理事いまゝ考へば。式に田河多米刈田と次第あれば田河より小倉方に出る筋なるべし。

○香春御

和名抄ニ田河郡香春郷あり。香春ハ。加波留ハル。ヒとよむべし。名義ハ風土記ニ云云来住此川原。郎名曰鹿春神。ヒとある小因て。川原の意なり。今ハ専カ。カハラヒと唱ふるなり。さて此所ニ川あり。香原村より西ニ流行て。緑野川の下流ヒと一ツニなりて。筑前内ニ入る。

すゝ万葉集九巻ニ。技気大首任筑紫。時娶豊前國娘子紐子作歌。

豊國乃加波流波吾家紐児尓伊都我里座者草流波吾家。

ヒとあり。紐ハ。香春人なるべし。さて今も田河郡香原庄内ニ。下香原村。又上香原町なヒあり。則香春岑の一岳南ニ去て。駅馬あり。豊国紀行ニ。上香春町南ニ。猪膝ニゆく道あり。猶膝ニゆく筑前ニ隈を過て。八丁坂を越て。秋月ニゆく道あり。是長崎ニいゝる路なり。又香春東辺ニ。ニ倉と中津ヒとニゆく道のちゝあり。北ゝゝ。ニ倉ニゆく道なり。是ゝゝニ倉まで六里半ありゝゝとあり。

○雉怡郷

和名抄ニ田河郡雉怡郷あり。雉怡ハ。知の一言ニよむべし。地名ハ。必二字ニかゝ例なれハ。ひぐきのイを添て書たるなり。本国を紀伊国ヒ書る類なり。神名式ニ出雲国神門郡智伊神社ヒゝもあり。名義いまゝ考へバ。さて宇佐大鏡ニ田河郡雉怡元松田敷ゝゝヒもあり。春岑ゝ。田河郡雉怡の知ハ。後世都ツに轉して。今の角谷辺をゝふゝ。常足云。田河郡東南帆柱山ヒてある。其辺ニ上角下角二村あり。是角谷なり。和漢三才圖會ニ。上角一里彦山ヒありなれ考ふべし。

○位登郷

和名抄ニ田河郡位登郷あり。位登ハ。韋等ヒと訓ムべゝ。名義ハ

井處なるう。其訳委く後かゝゝべし。今も田河郡上糸下糸。又糸田なゞ有ハ。全く古の位登卿の名残ゝ聞ゆ。井と伊か誤れ事。後世よ例多し。さて東鑑十七巻よ。元久二年丹門太郎重仲ゝゝ。太平記十二巻よ元弘三年春比。筑紫よ規矩掃部助高政。糸田左近太夫将監貞義ゝゝ平氏一族出来て。前亡余類を集め。處々の逆黨を招キて。國を乱ラむゝゝゝゝ。筑紫い大友小貳ふ打負ケて。朝敵首京都か上りしかば。共か大道を渡されて。やがて獄門か掛られきたゝ。同書十八巻か。先帝重祚初。規矩掃部助高政。糸田左近将監貞義か首を渡されありしも。不吉の例ゝこそ覚ゆゝゝゝなりあり。春岑ゝ。田河郡位登い。今の糸田村をゝゝ。

村中央よ一井有て。其水大旱ふもろ不走り出て為ゆむ事かし。さきゝ位登い。井處よて。此井有ゝが故の名形るべしとゝゝき。

○城田卿

和名抄よ。田河郡城田ゝあり。城田い。支多と訓べし。伊勢国度會郡城田。木多よゝあり。名義い。古よ城を築キる處なゞよて。負せしるう。神武天皇紀よ。ゝゝ作城處号曰城田とゝ支も見え多り。さて此卿地。今詳なゝゝゝ。強て案ずるゝ。今の鋤木田村其名残よても有むう。同郡上野村與国寺古文書よ。寄進豊前國上野宝覚寺。同國志生木田拾五町。朝町彦三郎入道跡事。右為天下安全。将軍家御繁栄所令寄所

也。須被專御願成就。懇祈仍寄進狀如件。文和二年正月十六日。刑部太輔大友氏時。源朝臣判。又豊前國天目寺領。鋤木田打添拾石。事任勝定院殿御判之旨。領掌不可有相違之状。如件。太宰少貳判。

○ある木田も由有て角ゆ。鋤木田。上野。辨城の三村一郡の地と角ゆ。重て按するに。豊国紀行に上野南一町許小辨城村あり。其東高山の麓小大なる岩窟二つあり。其口ハ方一間許ありて。奥ハ入九度何ほどか限りなく。天然の窟にて人力のおよぶさい見えず。云云。矢城村の南友吉村の前半里に合屋ゆ云。處あり。是友吉の支村なり。こゝも天然の岩窟あり。甚深くして又廣し。又窟中かいはゝに入りあるこて廣處多し。窟中の石形いと〳〵めづらし。又谷奥に岩窟あり。是ハ低くして身を屈處なれども。方一間許なり。上ハ奥方い下り坂の如くかいさがりなり。其深きこと限りなし。其内に水あるなりと。昔より此奥を極めしる者なしと云。二つとも矩火をともしてい入るに窟なりゆゑ見えあり。是も田河郡の中を流るゝ河に近き處なれば。彼麻剥。此窟に住ゆ

しかハあるゆゑ。古の賊窟中に住るこの多し。序に云。上野麓より少し下方に。上野。四山として陶器を作る處あり。上野焼とて名産なり。其製様ハ世に勝れて上なる事なれども。酸酒類を入置に長く傷ふ事なし。是ハ近古に筑前国鞍手郡高鳥井より移せりと云。高鳥居に居なりし陶工ハ。太閤朝鮮征伐の時。加藤清政彼国より連れ来あり。陶師の子孫なり。上野にひて當郡今任村。又小倉の清水に陶器を作きども。其製てるかに劣きゆ。

○我鹿屯倉

安閑天皇紀に。二年五月甲寅。置豊國我鹿屯倉。我鹿此云阿何。とあ

ゆ。名義いかゝ考へず。田河郡上赤下赤。二村あり。山中なれども田地廣き處なり。屯倉。跡詳なれど。或人云。桑原と赤村とゆ。桑原とも此国内と定めむ事いかゞあるべきこと。赤村とも安く考定むべし。さて筑前国住吉神社の古文書に。筑前國一宮住吉御寄附地。豊前国赤庄事任去正月十八日御寄進狀。可被沙汰時下地於當神主政忠之狀依

御執達如件。貞和七年二月廿八日。太宰筑後守殿。散位判。と
あるを。此赤村事と聞えあり。序又云赤村の川上東二里許
よりして。仲津郡堺なる山上より池あり。て。椒池と云。此池より山
椒魚と云物あり。此村内の川にもあり。大なるハ長さ二尺
より及ぶと。彼里人のかたりきりしなり

○杉坂山

香春神社古縁起に。豊前國風土記云。田河郡鹿春郷。在郡東北此
郷中有河年魚有之。其源從郡東北杉坂山流出。指正西流中
湊會眞漏川焉。此河瀬清淨因号清河原村。今謂鹿春郷訛也
昔者新羅國神自渡到来住此河原。便名鹿春神。又郷北有峯
頂有沼周三十六歩黄楊樹生焉。弟二峯有竜骨。弟二峯有銅
光黄楊竜骨等とあり。漏字ハ清ノ淨ノ誤きる物ときこゆ杉坂ハ。須藝佐加

と訓べし。名義ハ。杉の多く生ある。坂道なるとすて屑せらるる
べし。杉坂柳坂などの如し。杉坂ハ。今採銅所村の右名形りと云。郷北
有峯頂有沼とあるハ。香春一岳を云。絶頂より少北方城跡
小丘の沼残きりと云。弟二峯ハ二岳を云。竜骨今ハ亡と
云。弟三峯ハ三岳すて。山中に古に銅を堀し穴四十八穴有
と云。一説に嶽と云ハ。香春駅家近く本宮上ふして。えもいそず
けうきき山なり。西南方より望見るに。大石重なりて。
數十丈の断岸なり。此山石上ハ黒きやうなれども。是を割
るに盡く白石なり。多く石なりどの崩き落たる跡を見る
に。積雪の如し。上に山王社あり。大なる杉あり。立て。豊後
人麻氏云。田河郡香春岑ハ。香原駅家よりも見るに。樹木ハ見
えず。凡て芝山にして。巔に巖多し。昔より紫檀蘋木等の唐
木多く生多りと云。さるを俗説に此唐木ハ此岑神かの最
澄と共に唐土より渡て取持来給へりと云傳へあれど。實ハ
此山産かなる風流を好きて唐土より取寄せて植たる由

り。其紫檀ハ今領主の別業ゑ移植られ来るを已も行て見たるゑ。誠ゑうるハしき物ゑりとぞ云ふ。一嶽と二嶽との間ハ。宮谷のやうゑ成てひくく。そこゑ人舞と云物あり。四角ゑ堤をつきめぐらして采地の如し。三四ッ有べし。鏡山村ゑりかづく見ゆる處ゑり。是ハ昔山上の城ゑり合戰の為ゑ軍卒を出す時と入ゑ時と。人數の大略をはゑり見る料ゑりと云傳へゑり。二嶽と三嶽との間もひくく。二岳も巔より東側ゑかけて草木茂き。三嶽ハ一二峰より聊高くて。巔ゑ大石えもいえず多く重ゑりて。草木ハ甚をくなし。土人云三嶽の東麓ゑ宇佐宮の神鏡を造ゑし時。銅を堀取ゑるゑ。ゑりと云物あり。入口四五間ゑして奥ハ二ッゑつゑる。又西側山の半腹ゑ水晶ゑりと云物あり。是ハ殊ゑ好き〳〵ゑる物ゑり。穴口ゑりゆ入て。内ゑ畳一枚ゑく許の池有て。清水ゑ湧ゑれり。是ゑり奥ゑも穴あり。南方山九分許ゑ。朱ゑりと云物あり。其外銅を取ゑる穴ハ多し。凡て四十八穴と云と云ゑ。三嶽の東ハ甚ひきくして。諸山ゑつゞかず。上野辨城ゑどの方ゑり。荒人神方ゑゆく者。是を我ゆれば近し。是上採銅所村内ゑり。香原駅ゑり中採銅所村。町古宮八幡宮の前を通て。上採銅所の木部峠を越て。小倉方ゑ到る。是道の筋ゑり。木部峠ハ。規矩田河二郡堺ゑて。

高サ廣ゑり。採銅所ハ三村ともゑ山間ゑある村ゑて。坂多き處ゑれば。移坂と名付ゑり。此三所の内ゑる事ハ論ゑく。此三村ゑり流出る川。香原駅南側を西ゑ流ゑくゑり。さて。三嶽の東ゑ高山あり。竹木ハ見えず。上ゑ城跡あゑ。是京都郡障子岳城ゑり。古宮八幡宮の向ひゑ。近き山上ゑも城跡あり。原田氏ゑどの居所ゑりゑり。此近辺の山上ゑ荒人神。旧地と云もあり。荒人神ハ原田氏。人を祭ゑりと云。十月上申日ゑ祭あり。上採銅所ゑ猿田氏。人を祭ゑりと云。十月九大夫墓と云物あり。甚大ゑる物ゑり。貝原翁。豊國紀行ゑ云云。又其辺ゑ宮幣殿あり。是ゑるハ。採銅所村の事ゑり。中採銅所の北南方の田字ゑ。勅使田と云所あり。是ゑどゑ。里人云。三嶽の上ハ石ばかりゑて木ハ生ずゑる。中ゑ大石ありて何權現とゑ記せり。上字ハ見えず。二岳のゑち北ゑあたゑて風穴と云物あり。五徳村の上ゑりといへり。

○日子山

長寛勘文ゑ。日本鎮西日子山云云とあり。日子ハ。比古と訓べし。名義ハ彦神の意と聞ゆ。山ゑ男女の名ある事古ゑ例多し。肥前風土記ゑ。杵島郡縣

南二里有一孤山従坤指艮三峰相連是名曰杵島坤者曰比古神中者曰比賣神艮者曰御子神とあるゝど是其例ゝり。

さて海東諸國記ゝ俊幸戊子年遣使来朝書称豊前州彦山座主黒川院藤原朝臣俊幸以宗貞國請接待大友殿管下居彦山有武才。黒川ハ筑前國上座郡ゝあり。體原抄□巻ゝ筆ハ我朝ゝ傳ゝる事ハ仁明天皇御時小ゝ云ゝ或内教坊の妓女命婦石川色子築紫彦山小ゝて唐人ゝ是を傳ハるとゝ云ゝ彦山旧記ゝ橘正通右大臣氏公之後少納言實利之子也少入大学讀書与藤原在衡同硯席其後在衡任式部少輔補五位藏人正通不遇僅宮内亟遂出洛避世不知其所終或曰正通引妻子赴高麗国王善遇之登彦山橘正通

掛冠抖擻洛陽塵懐袍徒空長精神甘閑断無聞俗事探深終得見真人昔時曾羨華胥今日還成傳望賓稍覚淡交何所頼願携黄綿共相親

本朝年代記ゝ彦山有十谷四十九雲窟云云ゝど見之多ゝり。彦山を比古山とよむべし。彦山ハ田河郡南ゝ在て東ハ仲津郡南ハ豊後國日田郡西ハ筑前國上座郡ゝ隣りて三國ゝ跨がゝり。近國第一の高山ゝれど筑前芦屋灘周防灘豊後湯岳肥前佐嘉城樓ゝど遥ゝ見えて眺望比類ゝき處なり。中岳南岳北岳豊前坊岳相並て高し。山中大石多く岩壁十丈ゝ至る物往々ゝあり。西北ゝ櫻馬場あり。坂本ゝ登ると正面と才西向ゝり櫻馬場方ゝ

を登るとうゝ道とは。又南方鬼神方より。豊後国日田郡より
ゆく道あり。是を沿解越といふ。日田方より下る慶岩窟を。通
り。枫ゝど種々あり。山内よりシヤクナンザウとゝ云もの多し。此方よりゆくゝちゝ奇木多
さて彦山二十景と云ものあり。近国。八景アでとがへて是
を作る。近世の物ゝり。序より云橋正通と云人。罪ありて都を
いでゝ。朝鮮方よりおもむきたりと云事。此外物より見えたり。
しを忘きゝり。其比此彦山ふも来多りし。常足が先祖伊藤
権太夫常信と云もの。彦山二十景。注と云物を造きり。

○日子池

彦山記曰。玉屋窟者霊光所托之攸。有霊泉名如意水。霖干湛
々無増減。賜世吉凶。其神称金杖童子。水結命変身也。玉葉和
哥集より。

いさぎよき日子の高根乃池水の住むこゝろのすゐざらあやし

此哥ハ。或人筑紫の彦山より篭りて。後世事祈り申しける序より。

いさぎよき日子の高根乃池水より住むこゝろ又はけどもとし
とおもひつゝけて。よゞろゝ仏ありける夢より。告させ給ふ御
かゝゝとゝうじあり。又彦山縁起より。三所権現。従摩訶提國持
来如意添珠。納諸彦山。般若窟。云云弘仁年中。添蓮上人。欲感
得此宝珠。篭居窟辺。而讀誦金剛般若経者十二年矣。云云清
水従窟中出。於是俱利迦羅不動。含宝珠。隨清水躍出。上人以
袖受之。云云号之曰玉屋窟。云云。又添蓮上人歌。

祈ゝ人祈る印の例より彦の高根乃玉のひくいけ

本朝年代紀より。彦山有十谷四十九霊窟。第一窟号玉屋。彦山

大権現垂跡之霊地、崇神天皇時、八角水精石、現自窟中、神泉湧出、盈減経水旱不異、玉葉集所謂彦高根池水是也、天下有変則水涸云云、弘仁十年、法蓮上人於玉屋感得賢珠なども見之あり、玉屋窟、今ハ玉屋谷、鬼神ども云、彦山大講堂より南一里ほかり、鬼神坊中ども云物あり、玉屋谷より少し北ほ、玉屋谷、少し指出たる岩の高四十間ばかりあり、て、屏風を立たるが如くなる下ほ、北ほ入込たる窟あり、窟中の高三四尺許もあるべし、窟前ほ、聊拝殿の如き物を造り掛たれば、窟中ハ見えず、窟氏云、彦山玉屋水を改むる事、一年ほ五度なり、そハ正月七日、三月三日、五月五日、七月七日、九月九日、なり、玉屋谷、坊中此事ほあづかる、此水或ハ涸りあるひハ出る、ほ水の涸るなどとの落込て死多る、或水の出ハ処方三尺許ほして、又ふれる方なる蓋ありて、一指を入べきなあり、然るを近年工ゾの地ほ云云、事有り、年の五月五日、改ほ、大なる蟻ア入て居あり、昔島原一揆起りし時なども、ふと云、凡て是等ハ山内なれて甚秘事なり、鬼神ども云由ハ、此窟辺ほ、三所権現追儺、祭を行ひし慶あるほ依て、鬼神ども云名も起きりども云、変氏云、鬼神ども云ハ、上古ほ鬼の住ども慶なりども云、其鬼面を写し多る物なども、大なる假面あり、彦山二月祭ほ、強力ども云物なり、其假面を負しめて、這りたる業あり、さて其強力ほ、縄をつけて、後方より十人ばかりなりてひくなり、一人の力ほ敵しかねども云、假面の大さ額より頤まで時ハ常力なり異なる事なども云、又假面とぬくゆへなりと云、其さも大方尋常の人の凡三尺許なりて、甚大なる物なり、面の如くなりて、恐べきさま面もはあらべ、頗古作なり

○勾金荘

宇佐大鏡ほ、田河郡勾金荘四至、東限ニ大坂山、南限ニ路、西限ニ香原田堺、北限ニ本荘、庚申六年

七月日、国府、由見同注已、田數百卌町、用作一町八段、件、御封田四十六町六段欠、而長元四年二月廿六日、守豊原宿祢時方任、以上毛下毛田河三箇郡散在、御封田八十五町五段二百二十八歩、相轉立券、次任守令宗朝臣業任、以庚平元年三月日新加入田十六町六段、相轉立券、所篭之公田卌七町一段百五十八歩也あり、勾金八、万戎利加祢也訓べし、名義いまゝ考へべ、兵部式ま、丹後国勾金駅也云もあり、又宇佐記古文書件、小宇佐宮御寶前、豊前国到津勾金、両荘地頭職事、右為聖朝安穏異國降伏、殊有御祈願、所被寄進也、者依鎌倉殿奉寄進如件、建治元年十月廿一日、従五位上行相模守平朝臣時宗、まゝ御教書、豊前国到津勾金、両荘地頭職事、御寄進状被献之、御願成就、異國降伏之由、殊可被啓宇佐宮御寶前也者、依仰執達如件、建治元年十月廿一日、大宮司殿、相模守ゝどもあり、小出氏云、田河郡勾金荘と云ハ、鏡山村より伊田村、津野村のあゝりをかけて、曲金荘の内なる由、古き村名帳ま見えゝり、宇佐大鏡ま、四至事、北ハ本荘とあるハ、何ま考へむ、其外の方角ハ皆よくあゝ、應永戦覧記ま、勾金庄天台寺、又勾金伊田、大原、両豊記ま、勾金庄天台寺ゝとも有て、初ま引出ゝるが如し、

○鏡池

枕冊子ま、池ゝ鏡池とあり、又豊前名處和哥集ま、讀人不知、

豊国乃鏡の池ハ鏡石かくさせしるあやしかれしせじ
八幡本紀ニ。田川郡鏡小。珠宝寺池とて有ル。是や鏡池ならむ。
豊前名処和哥集ニ。田川郡鏡池。内ニ。ちいさき鏡あり。取見
までこしニ粟ニ雀の形あり。或説ニ鏡山村。鏡山ノ麓ニ。鏡ノ池と云物ありと云ヲ。此名処和哥集ニ云ると同処なるべし。一本ニ。企救郡ノ内山本岡里ニあり。彼処ニ語
傳へし哥ニ。
月も日も光たへまの池乃水曇らぬまでに我ありとしれ
この池の中ニ。ちいさき鏡ありとも。あけて見る。うら
の方ニ粟ニ雀の形あり。古老傳ニ。天照大神の落し給へる
御鏡なりといへり。よろ同書ニ便有て筑紫へ下りしニ。さしかしこ見ありきてなくさめ侍りしが。

ならぬ旅よしあれハ。たもとびやせニける。ちかし
て。立よりて鏡の池ニ影見まてひさひニ多き柴津山ノ形。
烏丸光廣。一本云此哥ハ烏丸光賢公。細川玄旨。御見まひの
時。云云とあり。常足按するニ古歌ニ鏡石と云へるハ。鏡山
の件ニ引出ある説の。半月の如しとある物なるべし。され
ど粟ニ雀の形とあるハ。企救郡の方なる鏡ニて別なりと
聞ゆ。天照大神の落し給へると云ハ。かの鏡山の故事ニて。
神功皇后を傳へひがこめる物なるべし。二方ともニ。鏡池
と云ニ依て。其傳もまぎれたるなるべし。豊前人。福江氏云。
企救郡山本村ニ。鏡ノ池と云物あり。方五尺許ニして上中下
三所ニあり。領主より池守を置ル。さて其池ニ鏡のあるを
常ニハ池中聊洞の如くなる処ニたく。是を見むといふ人
あれど。池守彼洞ノ中より取出して。先是を下ノ池ニて洗ひ。次
ニ中ノ池上ノ池と次第して。後人ニ見せる事なり。そこの里人
の語傳ニハ。此鏡ハ鎌倉ノ斉明寺入道殿。諸国巡見の時。此池
ニ沈メ置給へりといふ。

太宰管内志　豊前之三

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan